



Akita Prefectural University

Vol. 9



特集

彼らが県大で 勉強した理由

卒業生
インタビュー

GRADUATE INTERVIEW

03-04

2011年1月30日に行われた「ホッ
フ・スヌフ・キャンバス」で作った
ミニかまくら、本荘キャンバスが
幻想的な光景に包まれました。

修了生
インタビュー

GRADUATE INTERVIEW

05-06

01 NEWS&TOPICS

02 学生自主研究

03 彼らが県大で勉強した理由

07 PICK UP TOPICS

NEWS&TOPICS

全学



01

野口健氏を招いて公開講演会を開催

2010年11月23日、秋田市の秋田県民会館で7大陸最高峰に史上最年少で登頂したアルピニストの野口健氏を招き公開講演会を開催しました。「生きる」をテーマにした講演では、エベレストの登頂体験を交えながら自らの死生観について講演していただきました。この講演は、当学の「ヒマラヤプロジェクト」のメンバーが野口さんがネバールに建設している学校に、ソーラー発電機を設置したことが縁で実現しました。



04
岡安先生、
わか杉科学技術奨励賞を受賞!

秋田県が創設している「わか杉科学技術奨励賞」に岡安博准教授が選ばれ、2010年11月13日に秋田大学で表彰式が行われました。この賞は、秋田県の若手研究者の研究開発意欲を奨励するとして優れた若手研究者が持続的に輩出される環境を整備し、県の新産業・新事業の創出につなげようと、2007年に創設されました。本年度は秋田県内の大学・公設試験研究機関等から7件の応募があり、審査の結果、岡安准教授を含む2名が受賞者に決定しました。岡安准教授は「視覚障害者用スマート電子白杖の商品化」をテーマとし、白杖に距離センサーと振動装置を組み込んで、特定の範囲内にある障害物の情報をあらかじめ使用者へ伝達する電子白杖の開発を行っています。



07
新酵母を使用
「あきた吟醸ビール」完成!!

生物資源科学部中沢伸重准教授と株式会社あくら様の共同開発によって生まれた「あきた吟醸麦酒酵母」、秋田県産の六条大麦やホップを使用したフルーティでライトなビールが完成しました。2010年11月25日、秋田県や流通関係者・開発関係者、報道機関の皆様にお集まりいただき、「あきた吟醸ビール」の発表会を開催しました。

*吟醸清酒酵母とビール酵母とを交配させた新酵母で特許出願中



全学

02
三大学が連携し、講演会開催
～留学生との交流や高校生向け講座も～

秋田県立大学、秋田大学、国際教養大学の三大学は、2010年11月6日に湯沢市で市民講演会や高校生を対象とした講座を開催しました。この取り組みは、それぞれの大学が有する教育・研究機能を活用し、県民へ多様な学習機会を提供することで地域に貢献しようと昨年度から始まったものです。2度目となった今回は、新たに「異文化交流会」を行い、三大学に在籍する留学生と小学生の親子が一緒に各国の料理を作りました。参加した留学生はメキシコ、ベトナム、フィンランド、中国、ルーマニア出身の14人。県立大学からは中国の留学生が参加してギョーザを作り、小学生と一緒に皮包みをするなど交流を深めました。このギョーザは皮から作る本格的なもので、めん棒で丸い皮を手早く作る本場の技に、同行していた母親たちからも感嘆の声が上がりました。



本荘
キャンパス

05
バイオマス実験棟竣工式が行われました

2011年1月26日に本荘キャンパスでバイオマス実験棟の竣工式と実証試験用粉碎機の公開が行われ、県や由利本荘市、関係企業など多くの方々にご出席いただきました。木質系バイオマスから硫酸などを使わずバイオエタノールを作る場合、木材チップを細かく粉碎することで生産効率が上がります。しかしこれまでは、木材を粉碎するために必要なエネルギー量が実際に作られるバイオエタノールのエネルギー量の2倍以上にもなるため、実用化に至りませんでした。本学では独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の業務委託を受けて2009年度より県産業技術総合研究センター、中央化工機商事株式会社とともに木質系バイオマスの微粉碎機開発を進め、粉碎時に必要なエネルギー量を従来の5分の1に抑えられる試験機の完成に至りました。また、この試験機で加工された木材粉末を、プラスチックをはじめとした石油由来品の代替材料として利用していくことも期待されます。今後は秋田県、由利本荘市、森林組合などと協力し、ビジネスモデルの構築とその展開も視野に入れて研究を継続していきます。



本荘
キャンパス

03
秋田銀行員へ産学連携
コーディネーターを委嘱

連携協力協定を締結している株式会社秋田銀行様と「客員産学連携コーディネーター」制度を設けることとなり、2010年11月16日にカレッジプラザにおいて研修会が開催されました。研修会には同行から選抜・推薦のあった16人が参加し、終了後には委嘱状が交付されました。今後は、秋田銀行様の営業力と秋田県立大学の知が相乗効果を生み、県内産業の活性化につながるよう一層努力してまいります。



<http://yuripon.jp>



06

学生実習と地元商店活性化の両立を目指して
～「ゆりポン♪」プロジェクト～

2009年から経営システム工学科は由利本荘市商工会と共同で「ゆりポン♪」プロジェクトを推進しています。これは由利本荘市商工会が地元に理工系の大学があるメリットを活かした地域活性化の方策として考案し、事業化したもので、平成21年度においては「ゆりポン♪」と呼ばれる地元商店紹介サイト(口コ参照)を立ち上げる事業と、「なんでも知り隊」と呼ばれる学生チームを研究室で組織し4店舗の改善策を検討する事業に参画しました。前者は2011年2月現在、加盟事業者数が180店となり、地域最大のパーソナル商店街を形成しています。2010年度は後者の事業を拡大し、経営システム工学科3年生の必修の演習で実施することにしました。学生は演習期間中に3回事業所を訪問し、事業主様との対話から改善方針を出し、アンケートによる分析結果から改善提案しました。ご協力いただいた事業所は、飲食店、民芸品店、食品製造業など多岐にわたります。学生が案出した改善提案は事業主様から高く評価していただきました。この事業は2011年度以降も継続する予定です。ショッピングモールと違い、地元商店には地元暮らしのノウハウが蓄積されており、店員さんと相談しながら生活に合った品物を選べます。上のQRコードを頼りに「ゆりポン♪」へ遊びにお越しください。



木高研

09

開所15周年を迎え、記念シンポジウム
記念式典・祝賀会を開催しました

木材高度加工研究所は今年度で開所15周年を迎え、2011年10月15日、全国の木材研究者や国・県・市町村関係者のほか林業木材関係企業、一般市民など約200名が参加し、能代市内のホテルで記念式典を開催しました。式典に先立ち開催したシンポジウムでは「これからの中川夏樹さんへの期待」をテーマに、本県木材産業を技術立地型へ導くための研究活動の一層の拡充強化・進展を図り、関連業界の振興に向けて人材の育成や教育・地域貢献につながる主体的な役割を果たすことを期待する声が寄せられました。また、刊行した記念誌の表紙デザインは一般公募し、能代商業高校3年の中川夏樹さんの作品「飛翔」を採用させていただきました。コンセプトは「秋田スギをメインに周囲は澄んだ米代川、鳥は未来へ羽ばたいていく能代市民」を表現したものでした。



アスパラガス摘取器具の開発

機械知能システム学科1年
Haruki Hirayama

機械知能システム学科1年
Kanta Sawaguchi

平山 晴貴
岩手県出身
盛岡北高校

失敗した分だけ成功した時の喜びが大きいことを知りました。

澤口 寒太
岩手県出身
盛岡北高校

**色々な視点から物事を見る
ことでより良いことに結びつくことがあると学びました。**

システム科学技術学部：機械知能システム学科

研究グループ名 農作業支援メカニクス研究グループ

Q 研究の目的を教えてください。

A 農作業の多くは、収穫の際にしゃがまなければいけないので、高齢化が進む農業従事者にとっては大きな負担となります。一方で、食の安全性を考えると農作業者が直接収穫に関わるのは重要なことです。そこで、農作業者が直接、かつ簡単に収穫を行える道具があれば良いと考えました。この研究では、摘取作業が大変なアスパラガスの収穫を取り上げ、立ったままで快適に摘み取りができるような器具を開発することを目的としました。

Q 研究の内容について教えてください。

A まず、地面近くにあるアスパラガスを切断できるよう、市販の高枝はさみを改造して機構を追加します。また、はさみがアスパラガスを切断するのに合わせて、アスパラガスを掴む機構も同時に動くように取り付けます。これにより、立ったままでアスパラガスを収穫することができるようになります。次に、器具と人の手を含めた力学モデルについて考え、操作性と力の負担の両面から器具の使いやすさを検討します。この結果をもとに、役に立つ器具の開発を目指します。

Q 研究の楽しさ・やりがいは？

A 最終目標を自分たちで設定出来るため、目標に応じてたくさんの知識を身に付けることができます。また、自分たちの意見がそのまま研究に通じるところにやりがいを感じます。先生や先輩たちの意見をいただけるので、研究を通じて様々な知識や考えを身に付けられる事に楽しさを感じます。

学生自主研究 Student Research Collection

アクティブに挑戦する学生たちを紹介。

学生自主研究は1、2年生が興味を持ったテーマに対して、自分たちでグループを組織し、計画を立て実施する制度。大学から研究費が交付され、教員からのアドバイスも受けられます。

Isuna.

特産物を使用したスイーツ商品開発

生物資源科学部：アグリビジネス学科

研究グループ名 New Sweets研究会

Q 研究の目的を教えてください。

A 秋田には、米をはじめ多くの特産品があります。それらを活かした新たなスイーツを大潟村のお菓子屋さんと協力しながら開発してみたいと思いました。商品企画から製作・販売を実践し、商品開発のプロセスを学び、新しい商品開発・地域振興のあり方についても考える。若者の目線を秋田の商品開発に活かし、新たな「売れる商品」を創り出す可能性と、そのための条件を明らかにすることを目的としました。

Q 研究の内容について教えてください。

A 企業等との懇談会を行い、商品開発のための課題発見・確認をします。実態調査として秋田の特産品調査・加工場視察をし、それにより、商品企画・試作品作成（商品開発の実践）をします。できものは新商品の試食会（商品化・販売への検討）を開き、最後はアンケート調査による試食者の評価のフィードバックまで行います。

Q 研究の楽しさ・やりがいは？

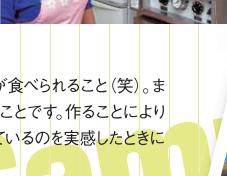
A 1つの商品を自分達の手で作り出せることや、スイーツが食べられること（笑）。また、秋田の中にどのような特産品があるか知ることができることです。作ることによりどんどん商品が見えてきたり、失敗を繰り返しながら上達しているのを実感したときに楽しさや、やりがいを感じています。

Q 学生自主研究を通して、得るものがありましたか？

A 原価計算の大変さや、日持ちするものを考えていかなければならないこと。そして新発売として販売されているものが苦労してできていると実感できることや、誰もが食べたいと思うものを作り出す難しさを知ったことです。



アグリビジネス学科2年
Daisuke Kato



アグリビジネス学科2年
Hitomi Nagatsu



長津 晴
新潟県出身
新潟県農業高校

加藤 大輔
秋田県出身
西仙北高校

伊藤 朋世
秋田県出身
秋田明徳高校

料理が好きです。自分の手で
新たなものを手がけたい、秋
田に新しいスイーツを。

美味しいものが食べたくて

腹が減っては、戦はできぬ

彼らが県大で勉強した理由

卒業生 インタビュー

GRADUATE INTERVIEW

REASON
01

松井 大輔
DAISUKE MATSUI

- 出身県／新潟県
- 出身高校／長岡大手高校



機械知能システム学科

4年間ずっと続けたアルバイトは社会勉強として貴重な経験に。就職活動にも役立つのでオススメです。

就職内定先

東日本旅客鉄道株式会社

「安全」を経営の最重要課題として、「お客様の死傷事故ゼロ・社員の死亡事故ゼロ」を目指し、絶えざる挑戦を続けている企業です。

REASON
03

佐藤 洋史
HIROSHI SATO

- 出身県／山形県
- 出身高校／山形南高校



建築環境システム学科

1年次の設計課題。初めてのグループ課題は、互いの意見を尊重しあうことで良い作品になったと思います。

就職内定先

清水建設株式会社

スーパーゼネコンの一つで、世界各国で様々な建築物を手掛けており、秋田では秋田県立大学の秋田キャンパスや男鹿水族館GAOなどを施工しています。

REASON
02

佐々木 悠介
YUSUKE SASAKI

- 出身県／秋田県
- 出身高校／横手高校



電子情報システム学科

Q 大学生活で一番印象に残ったことは？

A アルバイトです。大学生活4年間ずっと続けました。アルバイトは社会勉強になり、今後の就職活動、また、就職後にも役立つ貴重な経験をすることができます。日々の勉学に支障をきたさない程度にアルバイトをすることをオススメします。

Q 印象に残っている研究、授業等は？

A 卒業研究です。私が行った研究は「交通事故シミュレーションの構築」です。新規のテーマで前任者がおらず、世の中でも最近研究が始まったばかりなのでどのように研究を進めればよいか分からず、手探り状態で大変でした。しかし、何か一つのことに没頭できるのは大学生活ではなかなか無かつたので良い経験になりました。

Q 卒業後の目標は？

A 大学を卒業し就職したら学生ではなく社会人になり、自分で行ったことには責任を持たなくてはならないので、いつまでも学生気分でいることなく、一社会人としての自覚をしっかりと持ち、責任を持って仕事に取り組んでいきたいと思います。

就職内定先

株式会社ユアテック

株式会社ユアテックは、東北電力のグループ企業であり、電力流通設備から、電気・空調設備、情報通信まで幅広い事業領域を持つ「総合設備エンジニアリング企業」です。宮城県（仙台市）に本社を置き、東北を中心に事業展開を行う東北最大の設備工事会社になります。

Q 大学生活で一番印象に残ったことは？

A 就職活動です。自分を見直す良い機会になり、改めて自分の長所や短所を見つけることができ、それを相手に伝えられるようになりました。そのため、就職氷河期と言われていましたが、自分の希望する企業から内定をいただくことができました。

Q 印象に残っている研究、授業等は？

A 高校教員免許取得のため、長期休暇や土・日・祝祭日に行われる集中講義や特別講義です。教職科目的単位は卒業単位に含まれず、両方の単位を並行して取得しなければいけなかつたので、とても大変でしたが、途中で諦めることなく免許を取得することができました。

Q 後輩へのメッセージ

A 就職活動をするにあたって、「何が大事か、何を重視するのか」を自分でしっかり考え行動することがとても大切だと思います。周りの意見や情報ばかりに流されずに、自分の軸を持って就職活動を頑張ってください。

Q 県大の良いところ

A 建築環境システム学科は学年の壁を超えて、みんな仲が良いところです。新入生歓迎会も盛大なので入学してすぐ仲良くなれます。また、建築のサークルや学科内で開催する運動会、球技大会（の打ち上げ）など様々な活動を通じて、さらに親睦を深めることができます。

Q 印象に残っている研究、授業等は？

A 一年次の設計課題『ダンボールハウス』です。限られた量の段ボールを用いて、実際に人が入れるスケールで、採光、換気、断熱を考慮した快適な読書空間を設計しました。初めてのグループ課題で、意見がぶつかる場面もありましたが、お互いの意見を尊重しあうことで良い作品が完成したと思います。

Q 卒業後の目標は？

A 建築施工管理士として楽しい現場づくりを心掛けていきたいです。雰囲気の良い現場でなければ良い建物をつくることはできません。職人一人一人の考え方や気持ちを大切にして、みんなに信頼される施工管理士になりたいです。

REASON
04

宮崎 薫子
YUKIKO MIYAZAKI

- 出身県／静岡県
- 出身高校／浜松市立高校



経営システム工学科



勉強、研究、遊び、アルバイト…思い出に残る学生生活のために、今しかできないことをやってみてください。

就職内定先

浜松市役所

浜松市は、工業製品、豊かな自然や温暖な気候、音楽文化や各地域に継承された伝統文化などの街です。また、2007年に政令指定都市となり、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」の実現を目指しています。

Q 県大の良いところ

A 就職活動のサポートが行われていることです。就職情報センターーガイダンスが実施されているので、就職活動について分からぬことなど教えてもらえる点が良いと思います。学内外の講師の方の「ためになる」話や、履歴書の添削、個別の面接練習をしてもらえるのでとても助かりました。

Q 印象に残っている研究、授業等は？

A 外部講師による、折り紙を用いた多面体の講義です。折り紙のユニットを組み合わせて作る多面体では、枚数、折り目、組み立て方により異なる多面体ができます。多面体と聞くと難しく感じられるけれど、折り紙を用いているので興味がわき、楽しく学ぶことができると思いました。

Q 後輩へのメッセージ

A 勉強、研究、遊び、アルバイトなどは学生だからこそできる経験だと思います。大学での時間を大切にし、そこで出会った仲間と過ごすことで、思い出に残る学生生活が送れると思います。今しかできないことをやってみてください。

REASON
05

田村 佳奈

KANA TAMURA

- 出身県／岩手県
- 出身高校／盛岡北高校



応用生物科学科



何事にも積極的に挑戦し、充実した大学生活を送ってほしい。

就職内定先

森永乳業株式会社

牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、その他の食品を製造、販売する食品企業です。「おいしい」をデザインする」をコーポレートスローガンに、発想力と技術力にあふれた商品は、日本のみならず世界の人々の食卓に欠かせない味として親しまれています。

Q 県大の良いところは?

A 大学の教職員の方々がとても親身であるところが県大のいいところだと思います。先生方は研究室という垣根に関わらず気軽に声をかけてくれ、多くの先生とコミュニケーションが取れ、たくさんの情報を得ることができました。事務局や就職センターの職員の方々も様々な場面で支えてくれ、感謝しています。

Q 印象に残っている研究、授業等は?

A 1年生の時に「クラブアップルの美味しい体にいい調理加工法」の研究、2年生の時に「ダイエット米の開発」の自主研究を行いました。成分測定から加工品の開発までを行い、昔からのやりたいことだった機能性食品の開発が出来たことがとてもうれしく印象に残っています。

Q 卒業後の目標は?

A 仕事も日常生活も全てに対して全力で取り組み、充実した生活を送りたいと思います。また、アントナを大きく広げ様々な新しい知識を増やしていきたいと思っています。いつまでも学ぶ姿勢は持ち続けていきたいです。

REASON
06

吉田 裕也

YUYA YOSHIDA

- 出身県／秋田県
- 出身高校／秋田中央高校



生物生産科学科



いろいろな知識や経験を吸収し、広い視野を持ってほしい。

就職内定先

全国共済農業協同組合連合会秋田県本部

農業協同組合の理念である「相互扶助」のもとに事業活動を展開し、「ひと・いえ・くらしの総合保障」の提供によって組合員や利用者の豊かな生活づくりに努め、それを通じて安心して暮らせる地域社会をつくりしていくことを目指しています。

Q 県大の良いところは?

A 教授一人に対する学生数が少ないため教授たちとコミュニケーションをとる機会が多く、就職のことや学業面で悩みや疑問がある場合にも気軽に相談できるところだと思います。

Q 印象に残っている研究、授業等は?

A 二回生のときの圃場実習が印象に残っています。この実習を通じて自分が農業などどのように関わっていきたいのかを深く考えることができ、そのことが、それまで曖昧だった卒業後の進路を決める最も大きな要因となりました。

Q 卒業後の目標は?

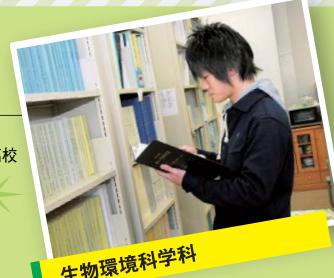
A まずは、社会人としての生活に早く慣れることです。それから、これまで感謝してもしきれないほど迷惑や負担をかけ、それでも私を支えてくれた家族に恩返しをしたいと思います。

REASON
07

坂田 基

HAJIME SAKATA

- 出身県／群馬県
- 出身高校／白鷗大学付属足利高校



生物環境科学科



大学で過ごす4年間はあっという間。
学生時代にしかできないことを実践してほしい。

就職内定先

武田薬品工業株式会社

武田薬品は、研究開発型の日本発の世界的な製薬企業として、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」ことを目指した事業活動を行っています。

Q 県大の良いところ

A 県大の良いところは、学生と教授との距離が近いところだと思います。そのため、サークルを通して教授と仲良くなることができ、教授も学生の顔を覚えてくれます。そうすることで、文化祭等のイベントも一緒にやって楽しめるというのが県大の良さだと思います。

Q 印象に残っている研究、授業等は?

A 「まつりが地域コミュニティに果たす役割」です。大学に入学してから4年間竿燈をしていましたので、それまでに得てきた知識と地域活性化を絡めた研究はとてもやりがいがありました。また、研究を通して竿燈会の人達や、地域の人達との間にできた人脈も宝物になっています。

Q 卒業後の目標は?

A 私の卒業後の目標は、会社でNo1になることです!何百人も同期がいる中で、1番になることは大変なことだと思います。しかし、竿燈をはじめ、この大学で学んだことはたくさんあります。その経験を活かして、会社でも仲間たちと切磋琢磨して、お互いを高め合えたらと考えています。

REASON
08

後藤 智美

TOMOMI GOTO

- 出身県／秋田県
- 出身高校／湯沢高校



アグリビジネス学科



自分の取り組み方次第で充実した大学生活に。目標を持って頑張ってください。

就職内定先

株式会社秋田銀行

秋田県秋田市に本店を置く地方銀行です。“地域とともに歩み、地域の発展とともに栄える銀行”を目指し、地元企業への積極的な支援を通じて地域経済の活性化の促進、地元の人々の満足度の高い水準のサービスを提供しております、経済の面から秋田を支えています。

Q 県大の良いところ

A 少人数教育を実施しているところです。自分が興味を持ったことや講義中の疑問点を先生方に質問しやすく、勉強や研究のやる気につながります。先生方の細かなサポート体制があるので自分が興味を持った研究に全力で取り組むことができます。

Q 印象に残っている研究、授業等は?

A 牛の体外受精技術に関する研究です。これは、私の卒業論文の大きなテーマでもあり、将来的にとても有望な技術である体外受精技術を、県立大学アグリビジネス学科で発展させていくという内容です。

Q 卒業後の目標は?

A 県立大学で学んだことを活かして、社会人としてがんばっていきたいです。県立大学では、目標を持ってそれに向けて努力することを学んだので、卒業後は今よりもさらに成長できるよう頑張っていきたいです。

彼らが県大で勉強した理由

修了生 インタビュー GRADUATE INTERVIEW

REASON
01

松本 直美
NAOMI MATSUMOTO

●出身県／長野県
●出身高校／佐久長聖高校

Q 大学院では、どんな研究に取り組みましたか？

A 「磁気駆動アークの熱流分布の理論・実験研究」について研究しました。プラズマアークに交流磁場を印加することで、熱流分布の制御が可能になります。この磁気駆動アークの開発によって、大面積の加熱・溶融を行う金属材料処理加工などへ利用が拡大し、環境問題の解決にもつながります。

Q 6年間で一番印象に残ったことは？

A Himalaya Projectでの活動です。ネパールやモンゴルなど電気のない場所に、エコでクリーンな太陽光発電装置の設計・製作・設置を行いました。このなかで、モノづくりの難しさや仲間と協力することの重要性、海外の方とのコミュニケーションの取り方など、多くの経験ができました。

Q 今後の目標は？

A 学生生活で得た知識や経験を活かし、柔軟な発想と精神を持った技術者になりたいと思います。これまでとは異なる分野に進みますが、多くの人の出会いや経験をひとつひとつ積み上げていき、社会人として大きく成長していきたいと思います。

Q 県大の良いところは？

A 学生が興味を持った事について、1・2年生のうちから研究できる点です。それを行えるだけの設備、協力して下さる先生方が多く、学生の積極性を活かし、研究を進めています。また少人数教育であるため、先生との距離が近く、十分な指導をしていただける環境だと思います。

Q 後輩へのメッセージ

A 学生生活で興味を持った事に、積極的に取り組んでください。勉強や研究に限らず、今しか出来ないことをすることで、人の出会いや貴重な経験を積むことができます。県立大に入学したからこそ、この場所だからこそ出来ることに取り組み、精一杯楽しめ、有意義な学生生活を送ってください。

海外での活動を通して、モノづくりの難しさや仲間と協力することの重要性などを多くのことを学びました。



機械知能システム学専攻

就職内定先

株式会社 日立製作所

「社会が変わる、日立が変える」という理念の下、知識と情報技術を中心とした先端技術によって、常に、新たな価値と可能性をもった製品、システム、サービスを提供し続け、豊かな人間生活とより良い社会の実現をめざす企業です。

REASON
02

倉橋 貴大
TAKAHIRO KURAHASHI

●出身県／愛知県
●出身高校／豊田南高校

Q 大学院では、どんな研究に取り組みましたか？

A 窒素同位体比を用いた、大気中の浮遊粒子状物質の動態解析を行いました。同位体比を使った粒子の研究は、世界でもまだあまり行われておらず、分析方法やサンプリング方法など手探りで作っていました。研究の後半は、得られた結果の解析を行いましたが、粒子自体の研究は歴史があり、それと新しいものを組み合わせて考察するのは、先生と共に大変苦労しました。

Q 6年間で一番印象に残ったことは？

A 同位体の実験精度が必要値まで向上せず、夏休みの間、ほとんど毎日夜中の2~3時まで実験、それからファストフード店に行って先生と議論する生活をしていました。乾いたタオルで更に綻るようにアイデアを出す苦しい期間でした。見かねた店長さんが差し入れてくれたコーヒーは良い思い出です。

Q 今後の目標は？

A 就職先と研究内容は全く違いますが、大切なことは同じで、とにかく地道に調べ、取り組み続けること、視野を広く持つことだと思います。特にこれからは、日本がTPPに参加した場合などに、農業のあり方がより大きく変化してしまうと思われます。その時、地域の農業をどう強くるか提案できるようになりたいです。

Q 県大の良いところは？

A 1年生から研究に携わる機会があることだと思います。いきなり自分で何か成果を生み出さのはとても難しく、始めは色々な先生や企業の方に助言を求め、指導してもらうことになると思います。どんな人からも学べるというは、大学ならではの特権だと思います。

Q 後輩へのメッセージ

A 大学の周りには何もないで、何かに打ち込むには絶好の環境で、このような経験はなかなかできないと思います。一生懸命何かに取り組めば、後々の自信につながると思います。



真夜中、ファストフード店で
アイデアを絞り出す苦しい時間。
店長さんが差し入れてくれた
コーヒーは良い思い出。

就職内定先

JAあいち豊田

全国にあるJAの一つです。地域に寄り添い、農業から金融、保険など様々な分野で活動しながら、地元に貢献しています。

経営システム工学専攻

サークル紹介

男子バレーボール部



代表代理：生物生産科学科

渡辺 恭平

KYOEI WATANABE
●出身県／秋田県
●出身高校／本荘高校

大会へ出場したときのエピソードや、受賞歴について教えてください。

岩手県での大会に参加したとき、シューズを忘れたことに会場に着いてから気づき、試合開始間際に会場近くのスポーツ用品店に買に行ったこと、同じ日に別の部員が「シューズが無い」と宿で騒いでいて、本当に困っていました。翌日会場の駐車場に着くとそこには前日の雨に打たれず濡れになっていたシューズがぽつんとあったことです。受賞歴としては、3年前の春秋リーグ優勝、2年前の秋リーグで優勝し2部昇格を果たしました。最近では一般的な大会に参加し優勝しました。

練習日が多くてもなんのその(^3^)v

練習はどこで、どのように行っていますか？

毎週月・水・土曜日に学内にある体育館で行っています。大会が近くなければ基本的な練習を行っていて、練習の後半はみんなで試合形式のゲームを行っています。他のサークルと比べると1週間あたりの練習日が多いしく、みんなは大変そうだと思いますが、基本は楽しくワイワイやっていて、適度に体を動かすことができるで厳しく感じることは 없습니다(^3^)v



今後の活動予定や、サークルのPRをお願いします。

今後は積極的に大学連盟以外の大會にも参加し、地域や一般の方達との交流する機会を増やし、大学生らしい部活動を展開していきたいと思います。それと、部員がもっと沢山いれば今よりも数倍楽しく部活動や懇親会ができると思うので、初心者の方でも経験者の方でも大歓迎なので体育館まで遊びに来てください(^3^)v





Isuna.



REASON 03

円谷 アンナ

ANNA TSUBURAYA

Q 大学院では、どんな研究に取り組みましたか？

A 「すぐ硬くなるモチ米」「長時間柔らかいモチ米」のように、デンプン物性が極端に異なるモチ米品種を材料として、モチ米の主要成分であるアミロベクチンの構造と物性の関係を中心に、何がモチのデンプン物性に影響を与えているのかを探る研究を行いました。

Q 6年間で一番印象に残ったことは？

A 研究生活です。学部生の頃は、とにかく楽しい毎日でしたが、大学院では、一つのことを突き詰めていく難しさや、分からなくなったり飽きてしまったりしても、研究と向き合っていかなければならぬ状況下で、自分の弱い部分を見つけることができ、少し成長できたのではないかと思います。

Q 今後の目標は？

A まずは社会人の生活を楽しみながら、早く一人前になるように努力したいです。長期的な目標としては3つあって、1つは、成長することを忘れずに、

●出身県／福島県
●出身高校／日本大学付属東北高校

ひとひとつのことから学んでいくこと、2つ目は、チャンスを大切にすること、3つ目は、イライラしない広い気持ちとポジティブな人間性を身につけることです。

Q 県大の良いところは？

A 少人数制なので、一人一人の学生の面倒をよく見てもらえるところ。これは、勉強面でも強く感じましたが、それだけではなく、就職活動のサポートをしてくださる職員の方々の熱心な指導も印象的でした。

Q 後輩へのメッセージ

A 楽しくて夢中になれることが、苦しいけど粘つてやりぬくことを大切にしてほしいと思います。大学院に進学する人も、就職活動をする人も、挫折したり劣等感を感じたり悩む時が来ると思いますが、学生時代に無我夢中になって取り組んだ気持ちや経験は、きっと役に立つと思います。

就職内定先

イーピーエス株式会社

最近増えてきたCROと呼ばれる業界です。新薬を世に出すための臨床試験を製薬会社から受託。医療機関で治療が正確かつスムーズに行われているかを管理し、各症例報告書から新薬の安全性や有効性を検証し、新薬の承認につなげるお仕事です。製造販売後の調査を行う部署もあり、多くの機能が関わり合って開発が行われています。



生物機能科学専攻

Q 今後の目標は？

A まずは社会人の生活を楽しみながら、早く一人前になるように努力したいです。長期的な目標としては3つあって、1つは、成長することを忘れずに、

行動に移すのは自分自身であること。有意義な学生生活を。

REASON 04

小河原 康浩

YASUHIRO OGAWARA

●出身県／秋田県
●出身高校／増田高校

Q 大学院では、どんな研究に取り組みましたか？

A 「鹿沼土を用いた排水処理システムの開発」を目的として、鹿沼土のリン除去特性の解明および鹿沼土に固定されたリン利用法を研究しました。リンは水を汚してしまって汚濁物質ですが、枯渇資源でもあります。特に、輸入に100%頼る日本にとって排水中のリン回収の検討は極めて重要であり、この夢のような話に3年間没頭しました。

Q 6年間で一番印象に残ったことは？

A 自主研究です。研究室に配属する前から研究ができることはいい体験でしたし、考察が不十分で自分のまとめた報告書は大部分を指導教官に助けていただきました。研究室配属後の現在は、自主的に参考資料を読むのは当然のことで、報告書が赤ペンで真っ赤になって返ってくるような薄っぺらい考察はしなくなりました。

Q 今後の目標は？

A 今後浄化槽に求められるコンパクト化・高度処理化・省エネ化の要素技術の開発に携わりたい

です。これは、多様な生態系で構成された水環境保全に今なお使命感を持ち、子供時代に川で油膜を発見したときから変わっていないかもしれません。また、社内公募の大学院派遣制度を利用して博士の学位取得を目指す予定です。

Q 県大の良いところは？

A 少人数教育なので、指導教官含め他研究室の先生方にも気軽に相談できます。特に私が研究対象とした「環境分野」は一つの専門分野では太刀打ちできず、異分野からも常に新しい情報を取り入れなければいけません。他分野からの鋭いご指摘・ご指導により、日々苦労しましたが、何倍にも厚みのある充実した研究をできたことに感謝しています。

Q 後輩へのメッセージ

A 県立大学は、講義以外に自主研究制度などもあり、自主性を追究する上で最適な場かもしれません。皆さんは在学中に先生や先輩などを通じて、さまざまなことに触れ、その何かに夢中になれる「きっかけ」を持っています。しかしながら、他人に何を言われても結局行動に移すのは自分自身です。それを忘れず、有意義な学生生活を送ってください。

遺伝資源科学専攻

就職内定先

フジクリーン工業株式会社

浄化槽や様々な水処理プラントの開発・製造・設計・販売・施工を一貫して行っている会社です。浄化槽は、人が使い汚してしまった水をキレイに再生し、周辺の水環境保全に極めて重要な役割を持っています。現在は、日本のみならずオーストラリアやアメリカなどグローバルに事業展開しています。

施設紹介

図書・情報センター

—本荘キャンパス—

県立大学の図書館は秋田キャンパス、本荘キャンパス、大潟キャンパス、木材高度加工研究所の4箇所にあり、全センターの蔵書総数はおよそ20万冊にもなります。本荘キャンパスには約8万3千冊の図書が所蔵されています。

本荘キャンパス所蔵の資料は、科学技術専門を中心とした各種専門書が9割以上を占めています。購入している本や雑誌は各分野の教員が選定しているので、本学の専門分野に関する資料が特に充実しています。所蔵している資料は、OPACという備え付けのコンピュータ目録で簡単に検索することができます。

一般の方も事前予約なしで利用できますので、ぜひお気軽にお越し下さい。

誰でも利用できる専門書の宝庫



【一般の方の利用について】

どなたでも自由にご利用できます。閲覧のみの場合は、入館時にカウンターでお名前、ご住所等をご記入ください。高校生または18歳以上の方であれば、本学所蔵の図書を借りることができます。その際には「利用証」を発行しますので、身分証明書をお持ちください。

※利用可能な時間は学内利用者とは異なります。詳しい利用時間はホームページの図書館カレンダーをご確認いただくか、お問い合わせください。

※「利用者証」をお持ちでない場合、あるいは直接ご来館出来ない場合でも、秋田県立図書館を通じて本学所蔵の図書を借りることができます。秋田県立図書館のカウンターまでお申込みください。

【お問い合わせ】

■本荘キャンパス／図書・情報センター
TEL.0184-27-2049 FAX.0184-27-2185

■秋田キャンパス／図書・情報センター
TEL.018-872-1561 FAX.018-872-1674

■大潟キャンパス／図書・情報センター
TEL.0185-45-2028 FAX.0185-45-2021

■木材高度加工研究室図書室
TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924

■図書・情報センターホームページ
<http://www.akita-pu.ac.jp/library/index.htm>

「イスナ」は、秋田弁で「良いですね」と言う意味。
 人材育成・研究開発を通して、地域社会の発展のために
 「良い」ことを発信していきたいと言う願いを込めています。
 これからも応援よろしくお願いします。



★ 本荘キャンパス、真冬の楽しい恒例イベント!★

—科学教室&ホップ・ステップ・キャンパス開催—



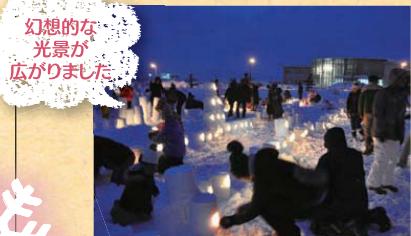
廃油を使って
ろうそくを作ろう



カラフルな
ろうそくが
できました



寒さに負けず
[ミニかまくら]
作り



幻想的な
光景が
広がりました

真冬の恒例行事、ホップ・ステップ・キャンパスが2011年1月30日に行われました。このイベントは、由利本荘市のボランティアグループ「南内越(みなみうてつ) アドベンチャースクール」の皆さまが、全国から集まつくる学生を歓迎する意味を込めて始めてくださったもので、今年で13回を数えます。今年は「廃油ろうそく」作りがパワーアップしてミニミニ科学教室になるなど、これまで以上にぎやかな催しとなりました。

午後1時すぎに集まった85名ほどの参加者は、科学教室で廃油ろうそく作りや注射器口ケットの発射実験などを体験。昨年までは廃油からのろうそく作りだけを行っていましたが、今年は由利本荘地域の高校理科教諭を中心としたボランティアグループ「科学する心を育む会」の協力を得て由利工業高校や仁賀保高校の先生方にも参加いただき、5つのブースを設置することができました。学生も子どもたちのろうそく作りや工作を手伝いました。

午後3時から行われたホップ・ステップ・キャンパスには、およそ200人の方が参加しました。小さな子どもたちを手助けしながら「ミニかまくら」を作る学生、ミニかまくらを何個も積み重ねて大きなオブジェづくりに挑戦するグループ、今年の干支にちなんでウサギの雪像を作るグループなど、それぞれの個性が光りました。

時折強い風雪にさらされながら作業する中、合間に豚汁や玉こんにゃくなどの差し入れという、嬉しいサプライズも!秋田の地域活性化を目的としたワーキンググループ「若者会議」のメンバーも、試食コーナーで3種類の寒天を振る舞い、どの味が一番気に入ったか人気投票を行いました。ほっぺたを真っ赤にした子どもたちも、大満足の様子でした。

最後には約500個のミニかまくらに科学教室で作ったろうそくを入れ、点灯。火が灯ったミニかまくらは、ふんわりと優しい光を放ちました。幻想的な光景を収めようと、カメラや携帯電話を構える参加者が印象的でした。

最後に、このような素晴らしいイベントを開催してくださった南内越アドベンチャースクールの皆さまをはじめ、参加・協力してくださった多くの方々に心より感謝いたします。

Akita Prefectural University
秋田県立大学

<http://www.akita-pu.ac.jp/>

E-Mail : koho_akita@akita-pu.ac.jp

[秋田キャンパス] ●本部・生物資源科学部 ●大学院/生物資源科学研究科
 ☎010-0195 秋田市下新城中野字街道端西 241-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670

[本荘キャンパス] ●システム科学技術学部 ●大学院/システム科学技術研究科
 ☎015-0055 由利本荘市土谷字海老ノロ 84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2180

[大潟キャンパス] ●生物資源科学部(アグリビジネス学科3・4年次)
 ☎010-0444 南秋田郡大潟村字南 2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377

[木材高度加工研究所]
 ☎016-0876 能代市字海詠坂 11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924

